

# (公開授業Ⅱ) 第2学年B組 英語科学習指導案

授業者 林 真希

2年B組教室

## 1. 題材名 Worka Tower (New Crown English Series 2, Lesson3)

### 2. 教科・題材における「やりくり」

新学習指導要領の「思考力、判断力、表現力等」では、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる力を養う」ということが目標として挙げられている。自分の既習の知識や経験などいかしながら、目的や場面、状況等に応じて、自分の考え等を表現することが必要になるだろう。

このような背景を踏まえ、本校英語科では、「話すこと」「書くこと」のアウトプット活動に焦点をあて、「相手を意識した表現活動」に取り組んでいる。アウトプット活動には、基礎基本の定着が必要不可欠であるため、授業の帯活動で既習文法を取り入れた会話練習活動を取り入れている。また、本学年の生徒は1年次より、自己表現活動として、自分の考えを書く活動やペアでお互いに関することを共有しあう活動を行っている。生徒たちは、これまでの既習文法を取り入れながら伝えたい内容を考え、表現している。

#### (1) 教師と教材

本学年の生徒は1年次に、「What's this?」クイズで、スライドを使って鳥取県に関するものを紹介するプロジェクトを行っている。自分の身近な物事から題材を見つけ、相手に伝えるというこの活動は、生徒自身が中心となり、お互いに教え合いながら取り組むという、大変有意義な活動になった。このことから、生徒が主体的に活動に取り組むには、生徒自身の身近な物事について、自ら問いを見つけ、自ら問題を解決しようとする姿勢が求められるだろう。そこで、2年次となる今回は、本単元にある「自分の町を紹介する」という活動に焦点を当て、鳥取県の紹介プロジェクト第2弾として授業をすることにした。紹介する対象者や場面、相手が求めている条件を設定することで、生徒が自ら考え、判断し、場に応じた表現が出来るようになる。生徒の「思考力・判断力・表現力等」を大切に、「ツアーコンダクターになり、相手の希望に沿うプランを考えてプレゼンを行おう」というプロジェクト型の活動に挑戦していただくこととした。

前回までの授業で、自分たちでプランを考え、そのプランを魅力的に伝えるためにどのように表現すれば相手に伝わるかを考えながら発表の準備を行ってきた。本授業では、各班で考えたプランを全体に発表する。「自分たちの伝えたいこと」を伝えるための英語として発表を行うことで、生徒たちの記憶に残るのではないかと考える。また、お互いの発表を聞きあうことで、自分では気付かなかった新たな表現に気付くことを期待している。

#### (2) 子どもと教師

本学年の生徒は、小学校から英語を学んできているため、英語を聞いたり、ペアワークでお互いに英語を使った活動を意欲的に行う生徒が多く、英語でのコミュニケーションを楽しんでいる。また、授業の中で、生徒同士で教え合う姿も見られる。各単元の後半にある自己表現の「書く」活動では、自分の伝えたいことをまとめながら、既習の知識や既習表現を駆使し、積極的に英文で表現しようとする姿が多くみられる。ペア活動やグループ活動では、活発に意見を交換したり、教え合ったりする一方で、クラス全体の前で発表となると、失敗を恐れてどうしても身構えてしまう傾向がある。その

ため、ペアワークを多く取り入れながら、ペア同士で伝え合う、グループ内で発表し合う等、英語を話しやすい雰囲気作りを心掛けながら、アウトプットにつなげていけるように授業を行っている。また、英文を書くという過程を経て、話す活動に移ることで生徒たちの活動もスムーズにいくことが多々あるため、既習事項を含めた知識・技能の定着をしっかりと行い、生徒たちの自信に繋がる授業を行っていきたい。

### (3) 子どもと教材

本単元では、自分の考えや事実、情報を正確に伝える手段として、「There is/are...」、「動名詞」を用いた表現を学ぶ。また、話すことの活動を通して、目的・場面・状況に応じて、自分の伝えたいことを簡潔にまとめ、聞き手に伝わりやすいように話を展開していくといったプレゼンテーションの仕方を考えることができる活動であると考え。単に自分の推奨する場所を伝えるのではなく、相手が求めているものをくみ取り、相手の要望をかなえられるような紹介が必要となる。本単元の新出文法を使うことで、自分に関することはもちろん、ある状況を説明したり、ある状況下で物事に取り組むといったことを具体的に表現することができるようになり、英語での発信力の幅が広がっていく。

また、発表に向けて班の仲間との協同で、聞き手にとってわかりやすい言葉やスライドを準備した。このような取り組みにより、スライド作成や英文作成時において、それぞれの苦手分野を補い合うこともできるだろう。プレゼンテーションに向けての取り組みは、生徒の既存の知識を結びつけるとともに、生徒の新しい気付きや概念に繋がっていくと考える。

### 3. 単元目標

- ・ There is / are ... の表現を用いて、物事を説明したり場所を示すことができる。
- ・ 動名詞の働きについて理解し、正しく用いて自己表現ができる。
- ・ There is / are ... や動名詞、既習文法を用いて、自分たちの伝えたい内容をまとめ、発表することができる。
- ・ 聞き手に伝わるように、対象・場面を想定し、対象者が求めていることを理解し、適切な表現を使うことができる。
- ・ 様々な視覚資料も含め、相手に伝わる英語の表現方法に興味・関心を持つ。

### 4. 学習計画（全9時間）

第1時	Lesson3 Get Part1	文法の理解と表現活動	...1時間
第2時	Lesson3 Get Part1	本文内容理解	...1時間
第3時	Lesson3 Get Part2	文法の理解と表現活動	...1時間
第4時	Lesson3 Get Part2	本文内容理解	...1時間
第5時	Use Read	ワルカタワーについての英文を読み、身近な環境問題について考える。	...2時間
第6時	Use Speak	自分たちの町、鳥取の魅力を伝えよう	...3時間(本時 3/3)

### 5. 本時の学習

#### (1) 本時の目標

- ・ 鳥取のおすすめの場所や食べ物を発表するために、伝えたい内容を整理し、聞き手のことを意識して、既習の表現を用いて伝えている。【思考力・判断力・表現力】
- ・ 自分たちのまとめた内容を伝えやすくするために、適切な音量ではっきりと話したり、正確な発音をしたり、スライドの写真等をわかりやすく提示しようとしている。また、聞き手として、他の班の発表内容に興味を持って聞き、良い点を発見しようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 期待される生徒の様相

- A) 伝えたい内容を整理し、スライドなどの視覚教材やメモを有効に活用しながら、聞き手を意識して伝えている。また、他のメンバーと協力して、伝えたいことを具体的に発信し、発音やイントネーション等を工夫し、聞き手を引き付けるような話し方ができる。
- B) 紹介したい内容をスライドの写真を見せながら、お薦めの場所や情報を英語で伝えることができる。また、聞き手に伝わりやすいように、発音やイントネーション等を工夫している。
- C) 発音やイントネーション等に課題が見られるが、スライドなどの視覚資料やメモにかいてあることについて発表できる。

(3) 本時における「やりくり」

- ・対象が変われば、自分の考えや思いを伝える仕方は必然的に変わってくる。相手が求めているものは何かをきちんと理解し、聞き手を意識して作成した資料を発表することは、これからの社会の一員として生きていく生徒たちにとって大切なものになるだろう。あらかじめ準備した視覚資料を読むだけではなく、自分の思いをきちんと伝えるためには何が大切かを考え、工夫しながらより良いプレゼンテーションにしようと努力する姿に期待したい。
- ・他の班の発表を聞くことで、新たな英語表現に気付かせたい。その気付きをもとに自分の英文を見直し、さらにより良い英文になるよう「やりくり」しながら英文を完成させていきたい。

6. 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援 ※評価)

学習活動	教師の支援・意図
挨拶	○テンポよく曜日、日付等の確認をするとともに、リラックスした雰囲気です授業を始める。
帯活動 「町紹介」の復習	○英会話トレーニング7を使い、ペアで確認しながら復習する。
活動① ・本時の流れの確認 ・発表準備	○班で最終確認をして、スムーズに発表ができるように伝える。 ◇評価シートを配布し、話し手・聞き手両方の立場での留意点を確認する。
活動② ・プレゼンテーション (3分30秒×8班) ・班ごとに発表	○発表時には、常に聞き手を意識し、全体に伝えようとする気持ちを大切に伝える。  ※鳥取のお薦めの場所や食べ物を発表するために、伝えたい内容を整理し、聞き手のことを意識して、既習の表現を用いて伝えている。  【思考・判断・表現】
・他の班の発表を聞いて、良かった点、良いと思った紹介文とその理由について、評価用紙に記入する。	◆評価の仕方が難しい感じる生徒には、発表者の何が良かったかを、評価表を見ながら取り組むように伝える。

	<p>※聞き手として、他のグループの発表内容に興味を持って聞き、良い点を発見しようとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>
<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を聞いて、良かった点・いい表現をクラスで共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今日の活動を通しての評価を伝える。</li> <li>○数名の生徒が、発表時に参考になった文や感想を発表する。</li> <li>◇クラス全体で生徒の意見を共有できるように、わかりやすく伝えるようにする。</li> <li>○各班の発表や全体で共有した点をもとに、自分の原稿を振り返り、さらに良い原稿にするように伝え、個の学習につなげていく。</li> </ul>

## Evaluation Sheet

2-( ), No.( )  
Name( )

◆他のグループの発表を聞いて、評価しよう。

評価の基準は、

content 興味深い内容か Targetに合った内容か	volume・eye contact 声の大きさ・アイコンタクト
-------------------------------------	-------------------------------------

グループ全体を評価しよう。

○各班の発表で良いなと思った表現・自分も使ってみたいなと思った表現を！文書こう。なぜそう思ったかの理由も書こう。

### Group1

contents A・B・C	volume・eye contact A・B・C
Good expressions 【良いなと思った表現】	
Why? (理由)	

### Group2

contents A・B・C	volume・eye contact A・B・C
Good expressions 【良いなと思った表現】	
Why? (理由)	

### Group3

contents A・B・C	volume・eye contact A・B・C
Good expressions 【良いなと思った表現】	
Why? (理由)	

### Group4

contents A・B・C	volume・eye contact A・B・C
Good expressions 【良いなと思った表現】	
Why? (理由)	

### Group5

contents A・B・C	volume・eye contact A・B・C
Good expressions 【良いなと思った表現】	
Why? (理由)	

### Group6

contents A・B・C	volume・eye contact A・B・C
Good expressions 【良いなと思った表現】	
Why? (理由)	

### Group7

contents A・B・C	volume・eye contact A・B・C
Good expressions 【良いなと思った表現】	
Why? (理由)	

### Group8

contents A・B・C	volume・eye contact A・B・C
Good expressions 【良いなと思った表現】	
Why? (理由)	

○各班のプレゼンを聞いて良かったところ、頑張っていたところをコメントしよう。